

LIMEIGHT

美しきバレリーナに
 よせる心を秘めて
 舞台に散った道化の恋...
 名優の至芸と
 愛の名曲でうたい上げる
 感動のチャップリン・シンフォニー



製作・脚本・監督・主演・作曲チャールズ・チャップリン

ライムライト

撮影 カール・ストラス
 美術 ユージン・ローリー
 編曲協力 レイ・ラッシュ
 主題曲集〈ボーク・レコード〉
 チャップリン名作集・講談社刊
 シネロマン「ライムライト」早川ノベルス文庫版



東和提供・アメリカ映画

チャールズ・チャップリン
 クレア・ブルーム
 シドニー・チャップリン
 バスター・キートン〈特別出演〉

待望の《ビバ!チャップリン》第4弾!

文部省選定

45. TOWA ANNIVERSARY FILM



「ピバノチャップリン」公開第四弾!

第一弾「モダン・タイムス」より「街の灯」「独裁者」と爆笑と感動を全国につたえた「ピバノチャップリン」が贈る第四弾。

戦後はじめての作品「殺人狂時代」(初)を発表して全米にセンセーションをまき起したチャップリンは、こうこうたる非難のなか、自分の作家としてコメディアンとしての才能のすべてを賭けた情緒ゆたかなメロドラマを計画、52年、完成を見た。それが、この「タイムライト」である。

■清冽な感動……胸うつ愛の名作!

「人間が生きたるためには、少しばかりの勇氣と少しばかりのお金があればいいんだよ……」

人生への絶望から自殺をはかった踊り子、テリーを救った老道化師カルペロは、愛にあふれた微笑をもって彼女を元気づけた。いまの彼には、かつての栄光はなく、生活も楽ではなかったが、何故か、この少女を見捨てることにしなかつたのだ。

大切にしているバイオリンさえも質に入れ、彼女の回復をねがった。そして彼女を勇気づけるために、それまで気のりのしなかつた舞台にも。しかしかつての喜劇王カルペロにも新しい観客は冷淡だった。絶望にうちひしがれて帰宅したカルペロを今度はテリーが励ますはめになった。「私に元氣を出せ」といったのはあなただったでしょう……今度は私が働くわ。」

最初、端役で踊っていたテリーだったが、彼女の踊りは群をぬいていた。その輝きは、たちまち興行者の目にとまり彼女の未来はバラ色に彩られていった。

テリーは幸福だった。しかし、それとは逆にカルペロは、いよいよ仕事の間を失っていった。自暴自棄になった彼にある日テリーは感謝の気持ちでか、真実の愛にめざめたのか、カルペロに結婚を申し込んだ。しかしカルペロは、やさしいげましの言葉だけを残して、その日から姿を消してしまった。こうして数ヵ月が去り、今や大スターとなったテリーは偶然街で再会したカルペロに、彼への恩がえしも含めて慈善興行を計画した。

待望の日、超満員の観客の前に熱演するカルペロに場内は爆笑の渦と化した。しかし、「これからは二人のコンビでやろう……」この言葉を背に踊りはじめたテリーの美しい姿を舞台の袖で満足そうに見つめるカルペロだったが、なぜかその瞳は光を失っていた……。

■映画音楽の古典「テリーのテーマ」

チャップリンは、この映画でも製作・脚本・監督・作曲・バレエ振付を受持っているが、数多い彼の曲のなかでも、全篇を彩るこの「テリーのテーマ」は特に有名。公開以来、今日に至るまでその美しいメロディは流れつづけている。先頃来日して人気を集めたエンゲルベルト・フンパーディンクも彼のレパートリーにしているほどである。



製作・脚本・監督・主演・作曲チャールズ・チャップリン

LIMELIGHT

タイムライト

文部省選定



クリア・ブルーム/シドニー・チャップリン/バスター・キートン/撮影カール・ストラス
東和提供・アメリカ映画

「ピバノチャップリン」第4弾!

永遠のテーマに輝く美しい恋愛映画

南 俊子

「タイムライト」は、映画の歴史の中でも、忘れることのできない、最も美しい恋愛映画の一つだと思ふ。この映画の美しさ、この映画の悲しさ、そしてこの映画が持つ永遠のテーマは、まさに「ロミオとジュリエット」にならぶ。おそらくチャップリンはある意味でシェークスピアにも匹敵するのではなからうか。

そして何より、ここには、私たちを酔わせる優しいセンチメンタリズムがある。人間の孤独。老いのさびしさ、青春へのいとおしさ……。老いた孤独な男が、若く美しい娘に恋される。テリーは何度もいう。「アイ・ラブ・ユー」と。そして真剣に、いちに、結婚さえ願う。

でも、彼は彼女をほげますときも、いたわるときも、愛を告白されておどろくときも、結婚してくださいとすがられたときも、彼女の手を軽くやさしくたくだけだ。彼は自分を、テリーの若さにふさわしくないと。彼女には、彼女にふさわしい若者との恋の成就をねがう。彼女の幸福を心からねがうのだ。やがてラスト。最後の舞台にかける老コメディアンの圧倒的なパントマイム芸にもうなってしまうけれど、背骨を打ち心臓発作に襲われて身動きできぬ重態のまま、舞台の袖の長椅子の上から、タイムライトに踊る白いテリーの姿をまぶたに、息たえる幕切れ。

「彼は私にとって、生活の糧であり、よりどころなんです。私があの人を愛するのはあの一ひの魂です。あの一ひの美しさ、あの一ひの悲しみです……。」

といったテリーの言葉を、いま私はそのままだな「喜劇王」チャップリンと彼の全作品に捧げよう。

〈映画評論家〉